

令和9年度 日本大学経済学部 総合型選抜（資格取得型）
第一次選考審査の講評

日 本 大 学 経 済 学 部

このたびは、日本大学経済学部の総合型選抜（資格取得型）に御出願いただきありがとうございました。

「エントリーシート」及び「小論文（事前課題）」について選考の結果、次の通り講評いたします。
なお、御質問には一切応じかねますので御了承ください。

「エントリーシート」講評

「エントリーシート」の審査においては、次の4点を中心に評価を行った。

1. 「日本大学経済学部」に対する志望動機が明確に説明されているか。
2. 取得した資格を大学での学修や将来にどう活かそうとしているか。
3. 卒業後のキャリアに関する考え方がしっかりしているか。
4. 上記のキャリア展望に基づいて、入学後の学修計画が立てられているか。

以上4点のそれぞれについて、抽象的な一般論ではなく応募者自身の考えを具体的に述べているもの、取得資格との関連性が明確で、志望動機・学修計画・卒業後のキャリアに一貫性のあるものに高い評価を与えた。

全体の傾向として、応募者自身が経済学への興味関心を抱いた経緯や、応募者自身のこれまでの経験等に基づいた、将来の目標・展望を最初に示したうえで、実現に向けた学修計画を具体的に提示したものが多かった。本学部のウェブサイトやオープンキャンパスで情報収集を行ったようで、授業科目名、ゼミの担当教員名やサポート体制にまで言及したものも多く見受けられた。また、卒業後の希望進路を述べるにとどまらず、最終的なキャリアの実現にどのような資格、経験や知識が必要かに言及しているものも少なくなかった。

一方で、本学部への志望動機が明確でない（他大学・他学部でも実現可能な）もの、資格と入学後・卒業後の計画が関連付けられていないもの、志望動機と入学後の計画との関連が明確でないもの、卒業後の計画が具体的でないものもあり、それらには高い評価を与えることができなかった。

「小論文（事前課題）」講評

今年度の第一次選考、小論文（事前課題）のテーマは、イノベーションを生み出すためにはどのような取り組みが必要か、様々な主体に着目して論述することであった。本課題の評価にあたり、理解力、文章表現、論理性、独自性という評価ポイントを置き、さらに以下の点も重視した。

- ① 論述の開始に際して、「イノベーション」の定義について明示できているか。
- ② イノベーションを生み出す取り組みを、主体ごとに整理して記述できているか。
- ③ 課題で提示された参考文献に加え、他の関連図書・資料を自分なりに整理したうえで論述に活用しているか。
- ④ 使用した参考文献の引用方法は適切であるか（例えば、文献リストを作成しているか、図書・資料から図表を引用する場合にはその箇所のページ数が記載されているかなど）。

提出された小論文の講評をまとめると以下の通りである。

評価ポイント①について、受験生の多くは論述の課題であるイノベーションについて定義したうえで論述が展開されていた。イノベーションの定義は多様である。他の先行研究や、提示した参考文献からイノベーションを定義したうえで、それを生み出す方法を考察した論文は高く評価した。その一方で、イノベーションが何を意味しているのか、定義せずに、一般論としてそれぞれの主体に求められることを記述していたものについては高く評価できなかった。

評価ポイント②に関して、受験生の多くは論述で指定した通り、複数の主体に着目し、段落を分けたうえで、それぞれの主体がイノベーションを生み出すために求められることの記述がなされていた。論述の中で、参考文献を示しながら実際の事例や具体例にも言及がなされていたものは高く評価した。また、主体ごとに必要なことを指摘しながら、それぞれの主体の関係性やイノベーションを生み出すためのプロセスについても言及があったものは高く評価した。

評価ポイント③及び④に関して、多くの受験生は課題で提示された参考文献以外の図書や資料を引用しながら論述していた。この点については高く評価できた。その一方で、資料・文献の引用が適切に示されておらず、資料に書かれている文章なのか、自分の考えなのか混同してしまうような回答があった。こうした点については形式上の不備として減点対象とした。

総合的に高い得点を目指すうえでは、課題が求めている内容がすべて充足できているかどうかを今一度丁寧に確認するとともに、形式上求められていることを正確に踏まえ、テーマに則った小論文を作成することが不可欠である。

以 上